

作文指導の計画と実践

——高1における作文単元の扱いから——

前 田 昌 則

はじめに

Ⅰ 作文単元「文章を書く手順」の三年間および年間において占める位置

- 1、三年間の作文指導計画略案
- 2、年間の作文指導計画案

Ⅱ 作文単元「文章を書く手順」の学習指導の計画と実際

- 1、学習指導案
- 2、学習指導の実際
- 3、考えさせられたこと

Ⅲ 作文分析

- 1、分析の対象とした作文
- 2、分析の結果
- 3、考えさせられたこと

Ⅳ 問題点とこれからの指導

おわりに

はじめに

国語教育のなかでも、書くことの教育は最近さかんに研究されるようになってきた。高等学校の国語においては読むことの教育が中心とならざるをえないことはいうまでもないが、他の書くこと・話し聞くことの分野も見おとしはならないと思う。

このように国語の四分野をみると、読むことについての研究はさかに行なわれてきているが、他の分野にはまだまだ未開拓な部分が多いといわれている。

私はこのうち、卒業論文で書くことの教育について取り扱ってみた。また、現場にはいっても、最も生徒のいやがるしたがって国語の力のなかでは弱いといわれている書くことについての力を少しずつでも身につけさせるにはどうすればよいかということを常に考えてきた。

そういうときに、ちょうど今年度から国語の科目が「現代国語」と「古典」とに二分され、「現代国語」のなかで作文の能力の向上をはかるべきことが改訂の基本方針のひとつとしてうちだされてきた。

そして、作文を主とする学習は、各学年とも年間授業時数の2/10以上を充てるように計画的に指導することがはっきりと指導要領に示されている。

これを機会に、「現代国語」の第一学年の作文単元を扱うにさいして、こんご三年間の間にどのようにして作文の能力を身につけさせたらよいかその計画をたててみた。このさいにはもちろん生徒の作文力の実態を考慮したうえで計画でなければならぬが、またその実態にあわせて計画を改めることも必要である。

この作文単元は高等学校ではじめての作文単元である。この単元を扱って、生徒の作文力の実態を知り、いろいろな作文指導上の問題点などを見つけたら、これからの作文指導のひとつの手がかりとしていきたい。

I 作文単元「文章を書く手順」の三年間および年間において占める位置

私が扱った作文単元は次のようになっている。

- 「現代国語一」（角川書店）第二単元「説書と表現」のなかの「文章を書く手順」 森岡健二

この単元が一年間のあるいは三年間のうちでどういう位置を占めるのかまず考えてみた。

そのために、次にある二つの表を作ったが、この表によってこの単元の占める位置がだいたいわかると思う。

この単元が三年間ではじめての作文単元であり、通信・報告・論説などの文章を書く基礎となるものだと思われる。

次に、この三年間の作文指導計画案と年間の作文指導計画案について少し説明を加えておこう。この二つの計画案は現在のところ考えられる範囲においての計画であって、生徒の学力やその他の条件に応じて、適当にくふうして計画を変えていく必要があることはいうまでもないと思っている。

さて、作文指導の基本的な考え方として、第一の表をみればわかるが、

第一学年ア（通信・記録）
エ（感想文・詩歌・随筆）を中心にした指導

第二学年イ（説明・報告）
エ（感想文・詩歌・随筆）を中心にした指導

第三学年ウ（論説）
エ（感想文・詩歌・随筆）を中心にした指導

このように重点的に考えていくのが、この場合は適当だと思う。そして、これらの学習活動を中心にして、いろいろな作文の指導事項を徹底させていくようにしたい。

1 三年間の作文指導計画略案

第一学年	第二学年	第三学年
単元名	単元名	単元名
学習活動	学習活動	学習活動

<p>近代の小説(一) あすなる物語・舞踏会 小説の鑑賞 近代の小説(二) 伊豆の踊り子・最後の一句</p>	<p>近代の短歌 近代短歌・唐招提寺の円柱 写生</p>	<p>読書と表現 読書について・文章を書く手順 日記と手紙 白いページ・手紙の心 美和子と明彦</p>	<p>観察と報告 自然の解釈・あゆのなわ張り 伝記と紀行 旅人・白い蜘蛛 随筆と評論 友情について・紙・学問の道</p>	<p>国語の構造 日本文法の話・アクセント</p>
<p>近代の小説 漂民宇三郎・暗夜行路 近代の戯曲 戯曲の説み方・夕鶴</p>	<p>近代の詩 髷のうへ・天気・道づれ 夏の終り・氷上戯技 近代の俳句 近代俳句・病寐六尺</p>	<p>感想と表現 描写の効果・ギリシヤにて ガラス戸の中</p>	<p>調査と報告 論文について・女のなまえ 雪を消す話 論説と評論 ほんとうの文明・ロダンのことば アヴェロンの野生児</p>	<p>国語の諸相 国語の多様性</p>
<p>近代の小説 たけくらべ・夜明け前 世界の文学 戦争と平和・イタリア紀行</p>	<p>近代の詩 望郷の歌・そぞろあるき せつなき思ひぞ知る マリアへ少女の祈禱</p>	<p>文体と表現 現代の文体・文章の構成</p>	<p>文芸論 なぜ文学は人生に必要か 芸術の意味</p>	<p>言語の機能 言語の機能・ことばの正確不正確</p>

自然	單元名
夕川 星の歌	教材
詩	文種
1 1	指導時間数
(4)	学期(月)
イア	指導事項
ア、要約(ノート)	考慮事項
エ	学習活動
<p>○表記について、ノート・メモの取り方、速記速写の技術を高める、これらの指導は常にする。</p>	

2 年間作文指導計画案

〔注1〕 単元の配列・順序を適当にかえてまとめた。
 〔注2〕 学習活動のアイウエは学習指導要領現代国語「書くこと」の(2)の学習活動の符号と一致する。(次の表の場合も同じ)

語彙 会議と討論 会議・よい聞き方 討論のしかた 人生と自然 川 (詩) 夕星の歌(詩) 春・案内者	エ	風土と人間 高崎山 ランパレネ通信	ことばとマスコミユニケーション 発表と講演 演説について 科学技術と人間
		近代の思想 永遠への思索 二つの型・科学と思考 伝統と創造 日本文化の雑種性 私社会観 社会と文化 ラスコアの洞窟 小林如泥	

歌	伝記と紀行		国語の構造		観察と報告		近代の小説(一)			読書と表現		人生と		
近代短歌	白い蜘蛛	旅人	語彙	アクセント	日本文法の話	あゆのなわ張り	自然の解釈	小説の鑑賞	舞踏会	あすなる物語	文章を書く手順	読書について	案内者	春
短歌	紀行	伝記	ク	ク	論説	記録	伝記	解説	ク	小説	解説	評論	ク	随筆
6	5	4	3	3	3	4	5	3	5	4	4	5	4	3
	9		9			9		12			9		9	
	I (9・10)		I (9)			I (6・7)		I (5・6)			I (5)		I	
オ	オエウア ケカ		ケ		ア、要約(ノート) メモ(カード)	エウイア ケキオ		ケ		ア、要約(ノート)	オエウイ ケカ		ケエウ	
エ	ア					イ	ア	エ			エウイア			
○口語訳(ノート)	○短文づくり ○自己についての記録文をかく。 (性質・過去について・将来の希望など) ○紀行文をかく(随意)。					○観察・報告文を書く。		○作文(身近な生物を見て、短い文章に書く。)			○短文づくり ○「文章を書く手順」を理解する。		○詩の題を考える(カード)。 ○作文メモ(「春の思い出」題・時・所・だれと・おこった事・主題をカードに書く。)	

随筆と評論	近代の小説(一)	会議と討論	日記と手紙	近代の短
友情について 紙 学問の道	最後の一句 伊豆の踊り子	よい聞き方 討論のしかた	白いページ 美和子と明彦 手紙の心	唐招提寺の円柱 写生
随筆 評論	小説	論説	随筆 日記 解説	随筆 評論
3 3 3 9	4 5 9	3 2 4 9	4 2 3 9	3 3 12
Ⅱ (3)	Ⅱ (2)	Ⅱ (1)	Ⅱ (11・12)	Ⅱ (10・11)
ケ	ケ カ イ ア	ケ	ケクカオウ	ケ
ア、抜萃 (要旨をあらわして いる部分)		ア、メモ(カード)	ア、要約(ノート)	
	エ		ア	
○短文づくり ○身近なものについて随筆をかく(随意)。 ○「友情論」をかく(随意)。	○短文づくり ○感想文をかく。		○短文づくり ○日記をかく。 ○手紙のかき方を知る(書式も)。 ○手紙をかく(休みも利用させる)。	○短歌を作ってみる(強制はしない)。 ○鑑賞文をかく。

〔注〕 指導事項・考慮事項の符号は学習指導要領のそれぞれの符号に一致する。

Ⅰ 作文単元「文章を書く手順」の学習指導の計画と実際

1、学習指導案

この単元の扱い方として、いろいろな方法を考えてみたが、けっ

きよく次のような案にした。

指導対象は、普通科一年59名(男子52名・女子7名)である。なお、このほかに、家政科一年(女子20名)の学級がある。

第一時

指導目標

1 主旨・構成を把握させる。

2 文章を書く手順の四段階を理解させる。

学習活動

1 範読(ごく簡単な着語をはきみつ)を聞く。

2 六つの段落にわけ。

3 各段落の要点をノートにまとめ、発表する。

4 文章を書く手順の四段階をまとめる。

5 文・文章・主題(文)・細目などの用語の説明を聞く。(時間

がなければ次時にする。)

第二時

指導目標

1 主題の決定が第一であることを理解させる。

2 表現計画の立て方を理解させる。

3 草稿の書き方を理解させる。

学習活動

1 主題の決定のしかたおよび表現計画の立て方をまとめる。それ
についての教師の補足説明を聞く。

2 草稿を書くときの注意をノートにまとめ、発表する。

第三時

指導目標

1 推敲すべき事項を理解させる。

2 いい文章の条件を理解させる。

3 主題の決定方法や表現計画の立て方を学ばせる。

学習活動

1 例文「ばくの兄」を参考にしながら推敲すべき条件十項目の説明を聞く。

2 いい文章の条件十項目の説明を聞く。

3 次の二つの話題についての主題を決定し表現計画を立ててカードにまとめる。

① 高校生活について ② 私の家庭について

4 (この計画にしたがって実際に作文を書いてくることをいう。)

第四時

指導目標

1 推敲すべき事項を体得させ、いい文章の条件を理解させる。

学習活動

(あらかじめ提出させた作文のうち適当なものを二、三プリントしておく。)

1 黙読して推敲すべき点はないか、いい文章の条件に照合してみてもうかについて気のついた点をカードに書く。

2 カードをもとにして、問答により共同修正をする。

3 教師の全体的な批評やまとめを聞く。

4 (各自の作文をもう一度推敲し、書きなおして提出することを指示する。)

第一時

2、学習指導の実際

指導目標

1 主旨・構成を把握させる。

学 習 活 動	備 考
(1) ごく簡単な清語をいれながらの範読を聞く。 (2) 六つの段落に分ける。(教師はページ数・行を板書) (3) 各段落の要点をまとめる。 (4) 第一段の要点を発表する。(適当にまとめて板書) (5) (第二段以下については家庭学習にすることを指示する。)	(2) かなりすらすらとわけた。 (3) 机間を巡回し適宜指導する。なかなか鉛筆が動かない。 (4) 時間がないので第一段だけ発表させ、やり方を示しておく。

第二時

指導目標

- 1 主旨・構成を把握させる。
- 2 文章を書く四段階を理解させる。
- 3 主題の決定が第一であることを理解させ、また主題の決め方を学ばせる。

(1) 各段落の要点を発表する。(適当にまとめて板書) (2) 文書を書く手順の四段階を問答によってまとめる。(それらを図示して、説明を加える。) (3) 「文」「文章」「主題(文)」「細目」	(1) 七、八名しかやってきていない。 ○ 難語句の説明を必要に応じてはさむ。
--	--

の語の説明を聞く。 (4) 「ぼくの兄」「道はなぜ悪い」の例文の主題は何かを考える。(それがはっきりしないのはなぜかを問い、主題の決定が第一であることを説明する。) (5) 例をもとにして、主題の限定のしかたをまとめる。(それらを図示して説明する。) (6) 二つの話題、「高校生活について」「私の家庭について」のいずれか一方について限定した主題を考えだし、ノートにまとめる。 (7) (できなかった生徒は次時までに行ってくることを指示する。)	(6) 先にやった家政科の場合から考えて、手順のひとつひとつ実際に経験させながら理解させていくほうがよいようなので変更する。 (6) 適当にヒントを与えたが、十名ぐらいいしかできていない。
--	---

第三時

指導目標

- 1 表現計画の立て方を理解させ学ばせる。
- 2 草稿の書き方を理解させる。

(1) クラブ活動の例をもとにして、表現計画の立て方の説明を聞く。(適当に問答をはさみつつ) (2) 草稿を書くときの注意をノートにまとめて発表する。(それらをまとめ、板書する。) (3) 主題を考えてくるという家庭学習は十五名ぐらいいやってきていた。	(3) 主題を考えてくるという家庭学習は十五名ぐらいいやってきていた。机間を巡回し適当に助言。何につい
--	---

<p>(3) 限定した主題を決め、それについて表現計画を立てて、カードに書いて提出する。</p> <p>(4) (できなかった生徒は家庭学習にすると、各自の表現計画にしたがって作文を書いてもらうようになることを指示する。)</p>	<p>て書けばよいか わからない生徒が多 かった。 十五、六名しかで きない。</p>
---	---

第四時

指導目標

- 1 推敲すべき事項を理解させる。
- 2 いい文章の条件を理解させる。

<p>(1) 「ぼくの兄」の例をもとにして、推敲すべき十項目の説明を聞く。(適宜問答をはさみつつ。また「推敲」の語義にもふれる。)</p> <p>(2) いい文章の条件十項目の説明を聞く。</p> <p>(3) (この単元で学んだことを参考に、各自立てた表現計画にしたがって作文を書いて提出するよう指示する。)</p>	<p>○ 表現カードを集める。37枚提出され</p>
---	----------------------------

以上が実際の学習指導の結果である。だいたい指導案どおりであるが、第三次までの学習活動を実際には四時間で扱うことになってしまった。したがって生徒の作文を使つての学習ができなかった。また、生徒の理解の程度が案外に低く、そのため家庭学習にまわ

した作業が多かった。家庭学習にまわした作業は学級の二、三割程度の者しかやってきていない。これから考えると、私の学校では指導すべき事項はできるだけ授業時間内におさめておくべきであり、家庭学習にあまりたよらないようにすべきかもしれない。

3、考えさせられたこと

まずこの単元の学習指導についての反省点を二、三あげておく。その一つは、結果からみて、主題の選び方、限定のしかた、表現計画の立て方などについての指導が不足していたことである。それについてもう少し実例をあげてみんなまで考えさせ、それから補足説明をしてやるが必要であった。

その二つめは、表現計画メモについてのくふうや指導がたりなかったことである。西洋紙四ツ切りの白紙をつかったわけであるが、書きやすいように適当に印刷したメモカードを作つてやればよかったが、それができなかった。

また、計画を立てているときにじゅうぶんに適当な助言・指導ができなかった。次の表現計画メモの分析のところでもふれるが、このメモを充実させることにより、もっと整った作品ができ上ったのではなからうかと思う。

その三つめは、評価がじゅうぶんにできなかったことである。教師の簡単な評語による口頭での評価だけにおわたつたが、もういちど自分の作品を推敲させたり、共同批評をさせたりできればよかったと思う。

その他、作業の指示事項をじゅうぶんに徹底させることが必要だと思つた。感しがいして指示どおりの作業をしていない者がかなり

多数みられた。

次に、問題点だと思われることを考えつくままにあげてみよう。その一つは、自分からすすんでよろこんで書く態度や習慣を身につけさせるようにすることが必要だと思った。

「作文を書いてもらいます。」というやいなや、「やれやれ作文か。」「あずり方か。」という声しきり。また、生徒の書いた「作文」という題目の作品を読んでみても、作文がきらいだということくり返し書いている。生徒は作文を頭からけきらいしているのである。なんとか好きにさせられないものだろうか。

その二つめは、主題・取材についての問題である。

具体的な話題を与えたのに何を書いたらよいかさっぱりわからない生徒がほとんどであった。主題を選び限定していく力、それに必要な材料を整える力をつけさせることが必要であり、その指導方法については今後の問題としていきたい。

■ 作文分析

1 分析の対象とした作文

分析の対象とした作文は、「高校生活について」「私の家庭について」この二つの話題を中心にして各自が立てた表現計画にしたがって書かせたものであり、宿題として五日間以内に提出させたものである。

提出された作文は四十九作品で、その内訳は、次のようになっている。

家政科 16作品 (20名在籍) 計49作品

なお、生徒たちの作文力の実態を知るひとつの参考とするため、作文の量を次にあげておく。

作文の量

原稿用紙5枚→1枚……………14作品

原稿用紙5枚→2枚……………24作品

原稿用紙5枚→3枚……………9作品

原稿用紙5枚→5枚……………2作品

2 分析の結果

ここでは、生徒たちが指導事項をどの程度理解しているかを考えるために、

主題について

表現計画について

推敲の程度について

この三つを中心に分析し、考察してみた。

その結果を項目別にまとめてみよう。

その1 主題について

(1) 主題の限定の程度

主題の限定がだいたいできているもの……………10作品

主題の限定のしかたがたりないもの……………23作品

主題の限定がほとんどできていないもの……………16作品

(2) 作文の内容

どんな主題をえらんだかの参考のために作文の内容をまとめてみた。

高校生活の自己経験や思いつきなどを羅列したもの……………11 作品
 友達について……………7 作品
 高校生になつての決意・心がまえ……………5 作品
 通学途中のこと……………3 作品
 新校舎についての感想……………2 作品

その他〔「掃除」・「赤点」・「上級生」・「作文」〕……………8 作品
 〔卓球部員としてのチームワーク〕など……………3 作品

家族の紹介……………3 作品
 家族の一員（父・母・弟など）についての紹介……………4 作品
 その他〔「子供部屋」……………4 作品
 〔ネコと私の家庭〕「家での仕事」など〕……………4 作品

〔雨の日の午後の空想〕……………1 作品
 〔人生について〕……………1 作品

その2 表現計画について
 この表現計画は、主題・構想・叙述のうちの構想にあたるわけであるが、49 作品のうちで、表現計画をじゅうぶんねって書いていると思われるものはわずか5、6 作品ぐらいである。

作文を書く前に、表現計画メモを書かせたが、だいたいメモにしたがつて書いてはいる。しかし、計画そのものが主題をうきばりにするように考慮されていないものがほとんどなので、作品もあまりよいとはいえない。

次に、この表現計画メモの分析結果をあげておく。
 (1) 作文メモの記述指示事項

- 1 作文題目
- 2 主題（できれば主題文も）

メモ用紙

3 表現計画
 細目ができるだけあげて、それらをいくつかの項目にまとめて書く順番をつける。

(2) メモカード提出状況

計	家政科	普通科	提出者数	作文題目・主題のみ記入のカード提出者数	未提出者
51	18	33	6	0	20
79	20	59	6	0	22
					計

(3) メモカード分類結果

51 枚のメモカードの内容を分類してみると次の五つにまとめることができると思う。
 なお、主題の書かれていないものや題目と主題とを混同しているものが非常に多かった。

- A 主題をおさえ、その主題を効果的に表現するように細目をあげ、まとめ、書く順序をつけていると思われるもの……………4
- B 主題はいちおうおさえているが、細目の選び方・並べ方に工夫がたらず、主題を効果的に表わすところまでいたっていないもの……………7
- C 細目もたくさん選び、まとめ方も書く順序もある程度苦心が見られるが、主題がややはっきりしないもの……………6

C ある程度主題は限定されているが、まとめ方や書く順序などのくふうがまったくなくて、単に細目を並べているにすぎないもの……………11

E 主題が漠然としていて、それについての細目の選び方・まとめ方・書く順序などのくふうがまったくみられず、単に細目を羅列しているにすぎないと思われるもの……………23
右の五つのそれぞれに属する例を、次へ示しておく。

例 A (やや2の考え方がたりないようだが)

- 1、ネコと私の家庭
 - 2、かわいいネコ
 - 3、イ、ミケが子を生む前の様子
 - ロ、祖母とネコ
 - ハ、父とネコ
 - ニ、ネコの名
 - ホ、弟・妹とネコの様子
 - ヘ、ネコがもらわれてきた時
 - ト、ネズミを取る時の様子
 - チ、子ネコのもられた先の心配
 - リ、こんどのネコと家族たちの空想
 - ヌ、子ネコの名
- 1 (ヘ)
 - 2 (ロ・ハ・ニ・ホ・チ・ヌ)
 - 3 (イ・ト)
 - 4 (リ)

例 B

- 1、私のめい
- 2、子供の必要さ
- 3、1家庭での子の位
- 2 家庭での子供の必要さ
- 3 もし子供がいなかったら
- 4 子は何をするか

例 C (1・2の区別がない)

- 僕と友達
- 一 一人の友達
 - 二 多くの友達
 - 三 友達をもってよい場合
 - 四 悪い場合
 - 五 上級生の友達
 - 六 同級生の友達
 - 七 友達に対する態度
 - 八 この先友達を選ぶ場合

例 D (2がない)

- 「私のみえちゃん」
- 1、みえちゃんの行動
 - 2、みえちゃんと水遊び
 - 3、みえちゃんの言葉
 - 4、みえちゃんと食事
- 使い

例 E

- 1 私の家族
- 2 兄弟
- 3 父母
- 兄弟
- 話し合い

その3 推敲の程度について

作文を読んでみて非常におどろいた。それは実にあやまりの箇所が多いということである。推敲すべきだと思われる箇所をカードに書きとり、分類してみると次のような結果になった。

主として文字力・文法力・語い力などの表記についての結果であるが、生徒たちには特にこういった表記についての基礎能力が弱いことがうかがえると思う。

- (1)誤字 (58字)
- 達 (達) 15名
 - 項・項・傾 (頃) 4名
 - 縣命 (懸命) 3名
 - 初・初 (初) 3名
 - 僕・僕 (僕) 3名
 - 家・家 (家) 2名

○教室(教) 2名 ○美しい(美しい)

○兄さん(兄) ○ロミ(ゴミ) ○窓(窓)

(2)送りがなについて(17箇所)

①たらない場合

○良か ○聞か く いって ○生れる く

②送りすぎの場合

○悪かった ○昔 し の ○忙 が しい

(3)あて字(19字)

○思 白 くない ○や 目 きて ○良い 事 葉 ○修 職 して

○考える 用 になり ○安 外

(4)脱字(7箇所)

○よ ば れ い ない ○乗 り も に 出 合 う

(5)会話文以外に方言などが使われているもの(11語)

○ど え ら い よ こ れ て いる ○ネ コ を さ ば ら う ○ち と な い と ら く に

○あ ん な ど ん 坂

(6)記号の使い方・かなづかいなどにつて

①長音の場合(11名)

○ず ー と 続 く ○上 手 に 書 く の ー ○言 っ て み ー な

②くり返しの記号(3名)

○い っ ま で も く ○子 を 生 ん で いる く

③促音拗音の場合(6名)

○き ゅ う に ○そ の あ と い い つ し よ に い ん で も よ い と 言 つ た が 、

○石 が つ ま て ○町 に い っ せ い に

④かなづかいについて(8箇所)

○お わ よ う ご ざ い ま す (は と わ)

○に を い だ っ た (お と を)

○学 校 え き て (え と へ)

○し ら つ に (ず と つ)

(7)略字と思われるものを使っている場合(4字)

○(門 が ま え ↓ 内) 向 い て ・ / 向 ・ 向 題 14名

○ 仵 く (働 く) 2名 ○ 矣 (点) 2名 ○ 一 戸 (一 層 の 略 か)

8 文法 の 面 に つ い て (5 箇 所)

○良 く なる は ず で ない ○省 性 する べ き こ と

○前 の 方 で し ん げ ん で 聞 か っ て いる。

(9)思いちがい・感 ち が い ・不 注 意 と 思 わ れ る 場 合 (37 箇 所)

①不 必 要 な かな を ぞ え て い る 場 合

○問 題 い 車 ま ○こ の 間 だ ○それ と お 同 じ よ う に

②○お も わ な 事 ○悲 し い 事 と い わ ば ○ほ く よ に 一 年 上 の

○私 も よ せ そ ん な に ○災 虫 が (害) ○考 じ ら れ ま す (感)

○完 成 の 日 を 持 っ た。(待) ○そ の 方 に も 見 を む け (目)

(10)句 読 点 に つ い て

句 点 と 読 点 と を 区 別 し て き ち ん と つ け て いる もの …… 11名

だ い た い (七、八 割 程 度) つ け て いる もの …… 14名 (3)

半 分 ぐ ら い つ け て いる もの …… 12名 (7)

ほ と ん ど つ け て い ない もの …… 12名 (7)

〔注〕() 内 の 数 は、句 点 と 読 点 と の 区 別 が な い もの

(11)文 末 の 「で である・だ 体」と 「です・ます 体」と を 混 合 し て 使 っ て いる もの (10名)

②そ の 他

①用語の使い方について(3箇所)

○マスコミが高くなって来た。 ○風呂をする

②文のねり方がたらず意味のはっきりしないもの(6箇所)

○中学校とは高校は遠く ○ゆけそかねばならない

○父はマイクロボスで、朝七時に家を出て、八時半ごろで、六時

前に家に帰ってくる。

③同じ語句をくり返しているもの(2名)

○そのあと井上君が、そのあといいしよに帰る、うやと

○……そうじをすましたあと、そうじがすんだあと

④敬語のつかい方のおかしいもの(2名)

3 考えさせられたこと

こういった分析の結果によって考えたことや思いついたことをあげると、次のようになる。

(1)作文の量についての結果からわかるように、量を限定しなかったことにも関係してくるかもしれないが、作文量が非常に少ない。内容を読んでみてもわかるが、生徒たちの書く力が弱く、また書く意識が相当低いのではないかと思われる。

(2)主題の選び方や限定のしかたについて考えてみると、「その1」「その2」の結果からもわかるように、主題の選択範囲がきざられており、限定のしかたもじゅうぶんになされていまいようである。

主題についても、高校生にふさわしい価値あるものを選ぶように留意させる必要があると思う。

(3)推敲の程度について考えてみよう。

書きなぐりと思われるものが多く、ほとんど推敲がなされていない。

いと思われる。このことは結果「その3」からみてよくわかる。また、「その3」から、中学をおえた高校一年の段階としては最も基本的な表記の力が予想外に身につけていないことがよくわかる。

その他、用語の使い方、文章の構成のしかた(段落を考えて一字さげて書いているものは七名にすぎない)、主題の効果的な表わしかたなどについても分析してみる必要があったが、そこまでできなかった。

(4)だれに自分の作文を読んでもらうのかという、書く相手を決めさせておくことも必要であると思う。相手ははっきりしているほうが、生徒たちは書きやすかったと思った。友人相手のもの、教師相手のもの、自己に語りかけているもの、一般的な読者相手のものなどの作文があったが、これらがまじりあった形のものがかなりあった。通信文的なものにすればもっと書きやすくなったかもしれない。

IV 残された問題点とこれからの指導

この作文単元を扱って考えさせられたこと、問題だと思われることを思いつくまま述べてきたが、さいごにそれらの問題点やこんど考えなければならぬ点をまとめてみよう。

1 授業の中に年間2・10以上という作文指導の時間をどこへ、なにを、どのようにくみ入れたらよいか。

2 基礎的な作文能力(表記力・観察力・感受力・想像力・批判力など)を身につけさせ、伸ばしていくにはどのように指導していったらよいか。

3 取材力や主題をとらえる方を伸長させるにはどうすればよいか。

4 評価の方法やその基準をどのように考えていったらよいか。

5 文章をすすんで書く態度や習慣を養うにはどうすればよいか。右にあげたことをこんご考えて指導していきたいと思っている。

ここの作文指導の場合、あまりに指導事項が多すぎて中途半ばに終わったような気がする。評価の場合にも、あれもこれもと多くの事項に広げすぎて、かえって評価がしにくく非常に困った。

こんごは指導目標・指導事項を一つぐらいにできるだけ限定して、そのことだけについて指導し、評価していくようにするのがよいとつくづく感じさせられた。

高校三カ年の間に、必要な指導事項をいろいろな型の文章でまんべんに徹底させていくことが必要であろう。

また、根気強くなんどもなんども反復して書かせ、指導していくようにしなければならないと思う。

おわりに

これまで述べてきた点はすべて作文の基礎的な事項の指導についてのことばかりであるが、現在のところではまずこういったことから始めるのが先決であると思う。

できないからといってそのままにしておくことはできない。なんとかして書くことに対する基本的な態度・習慣・技能を確実に身につけさせるようにしていかなければならない。もちろん、これだけで終わってはならないことはいまでもない。

同じ「山と川」という作文を書いても、小学生・中学生・高校生

の間には何らかの違いがあるはずである。それぞれの発達段階にふさわしい作文を書くことができるように指導していかなければならない。

現在の生徒たちが少しずつでも書く力を身につけていき、書くことが苦痛にならないように、むしろ喜びになるように指導していかなければならないと思う。

そして、作文教育の究極の目標である思考力を身につけさせ、伸長させて、一人前の社会人として書くことに不自由しないだけの作文力を身につけてやらなければならないと思っている。

(昭和38年5月稿)

(大阪府四条畷高等学校)